授業改善推進プラン＜教科別＞　　（別紙4）

学校名　　練馬区立谷原　　中学校

社会	課題分析 （学力調査結果、定期考査、授業の実態等）	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価（◎○△）
1年	【定期考査や1学期の生徒実態からみえる課題】 ○授業はまじめに受けているが、生徒間での学力差が非常に大きい。記述問題や発展問題に苦手意識をもたずに積極的に解答・正答する生徒もいれば、板書でさえできない生徒も少なからず同じ教室にいる。そのため、定期考査の結果も二極化している。どの学力に授業のレベルを合わせるか判断が難しく、大きな課題である。	【基礎・基本の定着】 ○基礎的・基本的な知識の定着と発展的な学習への取組 →生徒の個の学力に応じて、ワークシートの達成度や評価をしていく。 ○学力が高くない生徒に対する学力の底上げ →興味・関心をもってもらうために発達段階に合わせた、実物や映像を準備して授業に組み込む。学習することが楽しいことだという関心を高めることがねらいである。	【歴史的分野】 ○日本の歴史を世界とのかかわりからとらえるようにする。そのためには、指導者側の教材研究が欠かせない。また、日本の歴史を世界とのかかわりから多面的・多角的にみることができる視野が必要である。 【地理的分野】 ○資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの学習活動を取り入れる。	
2年	【学力調査からみえる課題】 ○都の学力調査では、都の平均を3ポイントほど上回っている。その中で、「知識・理解」の観点では、都の平均より1ポイントほどしか上回っていない。日々の授業で何度も復習を取り入れ、知識の定着を図ること、単元ごとに小テストを実施し、知識の確認を行っていく。下位層が少なくないので、机間指導を丁寧に行うこと、生徒の興味・関心を引き出す授業展開を考えることが必要である。	【基礎・基本の定着】 ○毎回の授業の中で、既習事項の確認ができるよう、授業展開を工夫する。単元ごとに小テストを実施し、知識の確認を行う。 【思考・判断・表現力の育成】 ○社会的事象について、ただ覚えるのではなく、原因や理由を考えさせること、自分の言葉で表現できるよう支援する。	【対話的な学び】 ○資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの学習活動を取り入れる。また、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させる。	
3年	【学力調査からみえる課題】 ○練馬区学力調査において、練馬区の平均正答率を4.0ポイント上回っている。「基礎」「活用」共に上回っており、特に一年次から大切にしている「基礎」で4.9ポイント上回っている。「活用」は1.5ポイント上回る結果となっている。地理的分野である「身近な地域の調査」が正答率が低いことに課題が残った。 【定期考査や1学期の生徒実態からみえる課題】○定期考査、授業の実態等では、社会的事象について興味・関心のある生徒が少なくなく、報道で取り上げられた内容を理解したいという生徒が多い。小テストや授業での前時の復習に力点を置いていることで、昨年以上に基礎的・基本的な知識が定着してきている。また、資料を読み取るための思考力・判断力の問題にも苦手意識をもたずに取り組める生徒が増えてきた。資料を活用した継続的な取組の成果が出てきていると思われる。しかし、自分の考えを文章にすることが苦手であり、記述問題を書かずに終える生徒もいる。	【基礎・基本の定着】 ○基礎的・基本的な知識の定着と発展的な学習への取組 →授業前に前時の復習を行い、小テストで定着を図る。発展的内容は定期考査の問いで取り上げる。考査前に補充プリントを配布・解説する。 ○歴史の大まかな流れをつかむ →定期考査前の学習会において歴史が苦手な生徒に参加を促す。 【思考・判断・表現力の育成】 ○記述問題に対する苦手意識の払拭 →授業で資料の読み取りを取り扱い、簡単な記述問題の解答から自信をつけさせる。	【歴史的分野】 ○日本の歴史を世界とのかかわりからとらえるようにする。そのためには、指導者側の教材研究が欠かせない。また、日本の歴史を世界とのかかわりから多面的・多角的にみることができる視野が必要である。 【公民的分野】 ○経済や政治、国際社会の学習において、少子高齢社会、持続可能性の視点や考え方を取り入れるようにする。	